

Syllabus Id	Syl-062332
Subject Id	Sub-062-007700
更新履歴	20090314 新規
授業科目名	日本語 Japanese as the Second Language
担当教員名	高澤啓子 TAKASAWA Keiko
対象クラス	5年留学生
単位数	1履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	留学生選択教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

長い留学生活を送るためには「生活に必要な日本語」「人間関係をつくるために必要な日本語」「学業に必要な日本語」がどれも必要となる。いまや高い知識と能力、技術があれば、日本人も外国人も同じ条件で進学・就職が可能な「国際人材時代」となっている中で、留学生にはより高い日本語能力が求められる。上級レベルになり表現力がつくと、丁寧さにおいても運用面での使い分けが要求されるようになる。対人関係の発展に重要な待遇表現を見直し、それぞれの立場や状況で期待されるコミュニケーションが持てるようになることを目指し、文法上・用法上のルール、待遇レベルの判断を左右する要素について考え、場面に応じた使い方とふさわしい表現を学ぶ。

前期の初めでは、日本の大学に編入学する際の進学と奨学金のための面接練習をする。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語能力試験 1 級程度の日本語能力、日本事情 (文化・生活・習慣)

	重み	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	◎	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
	D 日本語による表現能力、コミュニケーション能力を養う。異文化理解。		
学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。 		

授業目標

自分の立場、話す相手、周囲の状況に応じてふさわしい表現が選べる。知識として得た用語と表現を使用して実際にコミュニケーションが出来る。「日本 (人・社会)」という異文化を理解しカルチャーショックを克服出来る。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業概要、評価基準等の説明。地震と防災について。	
第2回	面接・因果関係	進学と奨学金応募のための面接練習・「お魚増やす植樹運動」	
第3回	面接・因果関係	進学と奨学金応募のための面接練習・結果に重点をおく表現	
第4回	面接・因果関係	進学と奨学金応募のための面接練習・原因に重点をおく表現	
第5回	面接・使役	進学と奨学金応募のための面接練習・(さ)せるの意味と機能	
第6回	面接・使役	進学と奨学金応募のための面接練習・(さ)せるの比喩的表現	
第7回	面接・使役	進学と奨学金応募のための面接練習・使役総合練習	
第8回	面接・使役	進学と奨学金応募のための面接練習・使役総合練習	
第9回	面接・使役	進学と奨学金応募のための面接練習・使役総合練習	
第10回	面接・受身	進学と奨学金応募のための面接練習・(ら)れるの意味と機能	

第11回	受身	(ら)れるの意味と機能、使い方	
第12回	受身	(ら)れるの使い方	
第13回	課題・演習	高専祭参加(展示発表)準備	
第14回	課題・演習	高専祭参加(展示発表)準備	
第15回	前期末試験	まとめ	×
第16回	課題・演習	高専祭参加(展示発表)準備	
第17回	課題・演習	高専祭参加(展示発表)準備	
第18回	課題・演習	高専祭参加(展示発表)準備	
第19回	待遇表現と使い方	ございます、丁寧化できる従属節	
第20回	待遇表現と使い方	接辞	
第21回	待遇表現と使い方	人を表す表現、動詞・形容詞以外のあらたまった表現	
第22回	待遇表現と使い方	授受表現の形と使い方	
第23回	待遇表現と使い方	授受表現の様々な用法	
第24回	待遇表現と使い方	丁寧体と普通体の使い分け	
第25回	待遇表現の場面	依頼する	
第26回	待遇表現の場面	依頼を承諾する、依頼を断る	
第27回	待遇表現の場面	文句・苦情・不満を言う	
第28回	待遇表現の場面	助言を求める、助言・忠告を与える	
第29回	待遇表現の場面	助言・忠告を理解する	
第30回	後期末試験	まとめ	×

課題とオフィスアワー

評価方法と基準

評価方法

試験、課題、授業に臨む姿勢等を総合的に評価

評価基準

前期・後期(試験50%, 課題・提出物30%, 出席・授業態度20%)
 学年末評価(前期40%, 後期40%, 課題20%)

教科書等	二通信子他著、改訂版『留学生のための論理的な文章の書き方』第8課「因果関係」(スリーエーネットワーク)¥1,400 安藤節子・小川誉子美著、日本語文法演習『自動詞・他動詞、使役、受身』一ボイス一、小川誉子美・前田直子著、日本語文法演習『敬語を中心とした対人関係の表現』一待遇表現一、(スリーエーネットワーク)¥1,300+税、 『進学と奨学金応募のための面接設問集(過去の沼津高専留学生在が面接時に受けた質問)』その他必要に応じて教員が用意した資料
------	--

先修科目	日本語中級、日本事情、
------	-------------

関連サイトのURL	
-----------	--

授業アンケートへの対応	
-------------	--

備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 留学生の理解度に応じてシラバスの変更を行うことがあります。
----	--